

令和4年度 “ふじのくに”^{しみん}士民協働 施策レビュー 改善提案への対応状況

1 基本情報

| | | | |
|--------|---|-------|---------------|
| 政策 | 政策6 “才徳兼備”の人づくり | | |
| 政策の柱 | 6-1 「文・武・芸」三道鼎立の学びの場づくり | | |
| 議論した施策 | (1) 「知性」・「感性」を磨く学びの場の充実 (3) 魅力ある学校づくりの推進 | | |
| 実施日／班名 | 9月10日(土) 第2班 | 担当部局名 | 教育委員会 教育政策課ほか |

2 施策推進の視点・主な取組

👉 **視点1** これからの時代を生きるための資質・能力を育む教育の充実

- ① 教育内容やきめ細やかな指導の充実
- ② デジタル技術の効果的な活用

👉 **視点2** 社会の変化や児童生徒、保護者、地域社会の多様な教育ニーズに応える学校づくり

- ③ 高校の魅力化・特色化と教職員の資質向上

3 現状・課題

【現状・課題1】

- 児童生徒が自ら未来を切り拓き、それぞれの夢を実現していく力の育成が求められています。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善が必要です。

【現状・課題2】

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、登校や外出が制限される中での学びの機会や質の確保が課題となった一方で、ICTを活用した学習環境の整備が急速に進み、ICTの可能性や重要性がクローズアップされました。
- 教育の多様化や専門化にICTを効果的に活用し、学習環境や教育内容の充実につなげていくことが求められています。

【現状・課題3】

- 学校を取り巻く環境が複雑化・多様化する中、魅力ある学校づくりを進めるためには、普通科改革等による高校の魅力化・特色化や、教育の担い手である教職員の資質向上を図る必要があります。

4 コーディネーター取りまとめコメント（コーディネーターが議論を総括して取りまとめ）

大きく、4つの課題が挙げられた。

第一に、教職員の負担軽減^①が課題となっている。不足する人員を把握し、外部人材の登用や、ICTの効果的な活用を進めるべきである。

第二に、教育現場におけるICT活用について、教員のスキルアップ^②が必要である。また、各校の成功事例共有^③のための仕組みづくりが必要である。

第三に、きめ細やかな指導と指導内容の質の向上に向けた、35人学級や小学校における教科担任制の推進^④が必要である。

第四に、小中高の連携^⑤による、教職員同士の情報や課題の共有の場の創出が必要である。

また、施策の内容がかなり多く感じられた。集中と選択が必要である。

5 施策の改善提案と対応状況

| 改善提案 | 対応の方向性 |
|--|---|
| <p>①教育現場の状況や課題を把握するとともに、積極的な外部人材の登用やデジタル技術の活用による業務の効率化などにより、教職員の負担軽減を図る必要がある。</p> | <p>現在の取組といたしましては、小中高等学校において、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門的知見を持つ外部人材の活用を進めています。加えて、小中学校において、スクール・サポート・スタッフとして、地域の方に校内の印刷業務や消毒作業などを行っていただくたり、高等学校において、地域の方や大学生等に外国人生徒支援を行っていただくなど、幅広く外部人材を活用し、教職員の負担軽減につなげています。</p> <p>また、小中学校では、各市町に1校ずつ「働き方改革推進校」を設定し、担当教員を中心に各学校の実情に応じた業務改善に取り組んでおり、校務支援システム等、ICTを活用した事務改善の取組を進めています。</p> <p>さらに、県立学校や市町教育委員会等を対象に、複数のメーカーによる授業支援システムの合同提案説明会を開催し、教職員の負担軽減につながるデジタル技術の活用を促進しています。</p> <p>御提案のとおり、教職員の負担軽減は大きな課題であることから、今後は、データ入力や校内環境整備にかかるスクール・サポート・スタッフの活用、学校便りの電子配信、職員会議のペーパーレス化等、「働き方改革推進校」における好事例を県内全ての小中学校で共有し、取組を更に広げていくほか、県立学校については、児童生徒の学習や出欠管理等の生活状況等を可視化するデータ連携基盤の構築やICTツールの活用促進により、学習と校務の効率化を目指してまいります。</p> |
| <p>②加速度的に進んだ教育現場におけるICTの活用においては、指導する教職員のスキルアップに加え、積極的な専門人材活用による教職員のサポートが必要である。</p> | <p>現在の取組といたしましては、教員に求められる資質能力の要素として「ICT・教育データを活用した指導」を掲げ、年次別研修等により、教員のスキルアップを支援しています。</p> <p>また、県立学校におけるICT機器設定やトラブル対応のサポートをするため、ヘルプデスク（GIGAスクール運営支援センター）の設置や、ICT支援員の派遣等、技術的な支援を行っています。</p> <p>御提案のとおり、今後もICT支援員の派遣等、現在の取組を継続して行うとともに、データサイエンスの考え方を取り入れた新たな教員研修の実施や、ICT活用にかかる教職員を対象とした出前講座の実施等により、教職員をより一層サポートしてまいります。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>③教育現場で ICT をさらに有効活用できるよう、各校の成功事例を共有し、授業内容がより充実したものとなるよう、工夫する必要がある。</p> | <p>現在の取組といたしましては、小中学校では、教育委員会が行う学校訪問等により、各校の ICT 活用の好事例を収集し、それらを研修会等で発信することで授業改善を促しています。また、ICT 活用を研究する学校を 5 校指定し、その成果等を県内に周知しています。高等学校では、教育委員会が開催する各教科の教育課程研究会等において、各校の ICT の活用事例を共有しています。</p> <p>さらに、県立学校の教員が利用する共有サイト上に、電子教材やマニュアル等を提供するとともに、ICT を活用した授業動画を撮影し、県内の全教員が利用する研修管理システム上に掲載しております。</p> <p>御提案のとおり、教育現場で ICT をさらに有効活用するため、好事例の収集・発信を継続するとともに、電子教材等を共有するサイトの利便性向上や、共有する授業動画等の充実を図ってまいります。また、今後は新たに特別支援学校においても効果的な ICT 活用方法を検証していきます。</p> |
| <p>④教職員が児童・生徒ひとりひとりと向き合い、きめ細やかな指導と指導内容の質の向上のため、小学校の教科担任制を進めていく必要がある。</p> | <p>現在の取組といたしましては、本県では、算数、理科、体育を優先教科として、小学校高学年の教科担任制を計画的に進めているところです。</p> <p>御提案のとおり、児童の学力向上や中学校への円滑な接続、教員の負担軽減等のため、今後も、定数上、必要な教員数の確保に努め、教科担任制を進めてまいります。</p> |
| <p>⑤小中高の教職員が地域内で連携し、教育現場における課題等の情報共有を行う必要がある。また、中学入学後に感じる授業内容のギャップを小さくする必要がある。</p> | <p>現在の取組といたしましては、小・中学校間では、従来から連携した活動に取り組んでおり、同一学区内の小学校と中学校で共通の教育目標を設定したり、授業等についての研修を共同で実施したりしています。また、義務教育 9 年間を見通した指導体制を築くため、小中学校の教員が相互に異動するなど、人事交流を進めているところです。中・高等学校間では、県内 10 地区において「心を育む地域連携研修会」を実施し、各地区の実態に応じて、心の教育をテーマに、問題事例の研究や効果的な指導方法の講演、情報交換を行っています。</p> <p>御提案のとおり、学校間での情報共有は指導上有効であることから、今後も、中学校の教員が小学校の授業内容等を理解し、ギャップを小さくするよう努める等、校種間連携・交流を推進し、地域全体の教育力向上を目指してまいります。</p> |